

# エコマラソン2008長野

## 実施状況報告書



平成20年10月

エコマラソン長野実行委員会

## 交流エコラン（長野市青少年練成センター会場）



## エコマラソン（エムウェーブ会場）



## 市販車クラス、エコドライブ体験



## 1. 本事業の趣旨

燃費の極限を追求するエコカー。長野市内および県内には、全国的に注目された長野市立篠ノ井西中学校をはじめいくつもの団体が全国大会に出場しています。中学生が材料調達からエンジン組み立て、車体の溶接、大会出場までを自分たちの技術を向上させながら取り組む姿は、新聞・テレビなどでも大きく取り上げられました。

2006年度の全国大会での中学生チームの記録は、1リットルで777kmでしたが、2007年度にイギリスで行われた世界大会では975km、2007年度の全国大会では1009km、広島大会では1269kmと、ついに1000kmを突破しました。このような取り組みから、日頃から何気なく消費しているガソリンの偉大な能力には目をみはるものがあることが実感できます。

この大会の趣旨は、エコカーの活動をきっかけに、エコドライブなどの知識を身につけ、貴重な石油資源の有効活用と地球温暖化防止を実践していこうというものです。今年も昨年に引き続き第2回となる長野大会『エコマラソン2008長野』を企画し、全国大会の燃費競技に準拠して燃費計測会を行いました。また、みんなで地球温暖化防止を実践するように、「エコマラソン・エコドライブ展」、「エコカーを体験！」などを同時開催し、大勢のご参加がありました。

## 2. 本事業の構成団体

本事業の主催団体は、エコマラソン長野実行委員会である。実行委員会は、主に中学校や高校、高専、大学などの教諭により構成されている。また、行政機関、民間団体をはじめ多くの後援、協力をいただき、本事業を実施することができた。

### ■主催

- エコマラソン2008長野実行委員会  
NPO法人CO2バンク推進機構
- ・長野市立篠ノ井西中学校 技術科教諭 箕田大輔
  - ・国立立長野工業高等専門学校 機械工学科 准教授 岡田学
  - ・長野県工科短期大学校 生産技術科 講師 千葉隆史
  - ・長野県長野工業高等学校 機械科教諭 鈴木英介
  - ・長野県飯田工業高等学校 教諭 須江繁征
  - ・松本市清水中学校 教諭 野沢重徳

- ・信州大学 教授、理事 野村彰夫
- ・国立長野高専技術振興会 信州まち育て研究会 代表 松岡保正（環境都市工学科教授）
- ・事務局 宮入賢一郎 NPO法人CO2バンク推進機構理事長、国立長野高専非常勤講師

### ■後援

国土交通省長野国道事務所／長野県／長野県教育委員会  
長野市／長野市教育委員会／信州大学／国立長野高専  
長野県環境保全協会・長野県地球温暖化防止活動推進センター  
NHK長野放送局／SBC信越放送／NBS長野放送  
TBS長野信州／abn長野朝日放送／INC長野ケーブルテレビ／信濃毎日新聞社／朝日新聞長野総局／読売新聞長野支局／毎日新聞長野支局／中日新聞長野支局／産経新聞社長野支局／日本経済新聞社長野支局／長野市民新聞社／新建新聞社／週刊長野新聞社／市民タイムス  
（財）ながの観光コンベンションビューロー

### ■協力

長野市消防局／長野市理科教育センター／長野市リフレッシュプラザ／長野市青少年錬成センター  
信州地域ネットワーク・プロジェクト（NPO法人CO2バンク推進機構）／（株）KRC／信州林業（株）／炭平コーポレーション（株）／（株）角藤  
国立長野高専信州まち育て研究会／（社）日本自動車連盟長野支部／（株）ドリームモータースクール／ホンダカーズ長野中央／サントリーフーズ（株）／（株）三建／長野森林組合／齋藤木材工業（株）／株式会社エムウエーブ  
小田切園 ほか

その他、大勢の団体・個人の支援を得た。

## 3. 開催日時・場所

毎年10月に栃木県のツインリンク茂木で行われる全国大会の1ヶ月前にあたる9月13～14日に開催した。

開催場所は、周回距離が長く安全管理ができるなどの条件を満たす施設として、長野市の五輪施設である『エムウエーブ』を選定し、施設管理者の協力のもと、大会を開催した。前日は、参加チームによる交流会を『長野市青少年錬成センター』で開催し、参加者および関係者で交流、親睦を深めた。

前日まで不安定な天気が続いていたため気がかりであったが、大会当日は秋晴れに恵まれ、大勢の参加者で盛会となった。

### ■平成20年9月13日（土）

13:30～20:15

会場：長野市青少年錬成センター（交流エコラン）

### ■平成20年9月14日（日）

9:00～17:30

会場：エムウエーブ

（エコマラソン、エコマラソン（一般参加）、エコドライブ体験、エコカー体験）

交流エコランの会場となった『長野市青少年錬成センター』は、グラウンド、体育館を備えた150人収容の宿泊可能な市の郊外、中山間地にある青少年活動施設である。

また、燃費計測会の会場となった『エムウェーブ』は、長野五輪のスピードスケート会場となった約1万人収容可能な競技施設である。本大会では、その外周道路をコースとして使用させていただいた。

## 4. プログラム実施状況

### 4.1 タイムスケジュール

9月13日は、午前11時にスタッフが集合し、会場設営などの準備を行った。中学校や高専、社会人チームも加わっての運営準備や、車検・走行・運営のテストも行い、翌日の大会に備えた。

夕方からは、会場を長野市青少年錬成センターに移して交流会とした。交流会では、各チーム相互および運営スタッフとの連帯を深めることができた。

#### ■9月13日（長野市青少年錬成センター会場）

17:45 交流エコランオープニング  
18:15 夕食  
19:00 マシン見学会&講習会  
20:15 お風呂、マシンの整備など  
22:00 消灯

大会当日は、早朝から準備にとりかかり、開会式を9時定刻に開催した。開会式では、主催者の挨拶のほか、長野市消防局の鎌田氏から安全に関する訓辞といただき、開会式後のドライバーズミーティングなどと合わせ、参加者全員が安全に大会を運営することを申し合わせた。

燃費計測会に先立っての車検は、全国大会の規程に準拠し、規格や安全性などを入念に点検した。車検責任者は競技委員長の岡田先生があたり、エコカー大会参加の経験の長い篠ノ井西中学校のOBが協力した。

燃費計測会では、時間内に3回出走することができ、各チームが調整を繰り返しながら参加した。初めて走行させるマシンも多く、予期せぬトラブルで完走できなかったチームもあったが、全体的

には全国大会に向けた有意義な会となった。

閉会式では計測会の結果を報告しながら、最優秀賞や優秀賞、奨励賞、努力賞の表彰を行った。

#### ■9月14日（エムウェーブ）

6:00 起床  
6:30 青少年錬成センター会場発  
7:30 エムウェーブ会場着  
受付開始  
8:00 車検&コースウォーク  
9:00 開会式  
9:20 ドライバーズミーティング  
9:30 大会スケジュール、参加チーム紹介、ルール説明  
10:00 燃費計測会（午前）開始  
12:00 市販車クラス大会  
12:30 エコドライブ体験  
13:30 燃費計測会（午後）開始  
15:00 休憩  
16:30 燃費計測会終了  
17:00 また会おうね閉会式・表彰式  
18:00 解散

### 4.2 指導者、協力者

長野県内のエコカー活動チームは、中学校・高等学校・高専が多いことから、実行委員会は、こうした取り組みを行っている教職員有志によって構成することにした。

#### 実行委員長

箕田大輔：長野市立篠ノ井西中学校 技術科教諭

#### 競技委員長

岡田 学：国立長野工業高等専門学校

機械工学科 准教授

千葉隆史：長野県工科短期大学校 生産技術科 講師

鈴木英介：長野県長野工業高等学校 機械科教諭

須江繁征：長野県飯田工業高等学校 教諭

野沢重徳：松本市清水中学校 教諭

野村彰夫：信州大学 教授、理事

松岡保正：国立長野高専技術振興会環境都市工学科教授

信州まち育て研究会 代表

#### 事務局長

宮入賢一郎：国立長野高専 環境都市工学科非常勤講師

NPO法人CO2バンク推進機構理事長

2日間の司会進行は、信州大学の湯本沙綾香さんが担当し、進行や実況などで活躍してくれた。

#### ■安全訓辞

長野市消防局予防課 鎌田様

#### ■表彰

長野市長 鷲澤様 （表彰状ご提供）

ながの観光コンベンションビューロー

（各賞の副賞ご提供、参加賞ご提供）

サントリーフーズ（株） （参加賞ご提供）

#### ■スタッフ

23名（CO2バンク推進機構会員・職員ほか）

このほか、篠ノ井西中学校の生徒が各コーナで旗を用いたのコースマーシャル・連絡係、国立長野高専の学生が事務局補助員、篠ノ井西中学校OBが車検、燃費計測等の補助員を務めるなど、参加者も運営に大きく貢献してくれた。

また、実行委員の先生達も、競技本部事務局、計測等の役割を分担して運営を行った。

### 4.3 交流エコラン

エコマラソンの前日、長野市青少年錬成センターを会場として、エコマラソンの参加者を中心とした交流会を行った。エコカーを体育館に集め、各マシンの紹介や製作上の苦労話、マシンの講評などを行った。

同じ地域で活動する生徒や教職員同士ということもあり、すぐに打ち解けあい、交流や情報交換の場として有意義なものとなった。

### 4.4 エコマラソン（燃費計測会）

エコマラソンはエムウェーブのアリーナ（室内競技場）の外周 約1kmのコースを使用して行った。コースを12周走り、その時に使用した燃料（ガソリン）の使用量から燃費を算出する方式とした。

全国大会に準じて制限時間（30分以内）を設け、1周約2分30秒、時速にすると約24km以上のペースで走行する規程とした。ドライバーはメカニックからの指示を聞きながら、燃費とペース配分に気を付けて走行した。

ゴール後はすぐに燃料系統をすべて取り外して燃料の計測（全重量計測方式）を行い、燃費記録の公式確認を行った。

エントリー20チームの中で最優秀チームは、515.113km/リットルという好成绩であった。各チームは、1ヶ月後に迫った全国大会に向けての感触をつかんだようで、長野大会の意義を高く評価してくれた。

### 4.5 エコマラソン（一般参加）

今年は新たに一般車（市販2輪車）を対象とした燃費競技も行った。エントリーは2チームで、このうち最優秀チームは115.737km/リットルという成績であった。市販されている車（バイク）が、ドライバーのエコドライブテクニックによりどのくらい実際の燃費が改善されるか興味深いものとなった。

### 4.6 エコカー体験会

エコドライブに参加している国立長野高専の学生達に協力していただき、計測会で実際に走っていた2人乗りエコカーを使ったエコカーの試乗体験会を行った。見学に来ていた子どもや家族連れに、実際のエコカーを見て、乗って、走りを感じながら物作りの楽しさや環境への関心を育んでいただいた。

## 5. 参加状況

昨年に引き続き第2回目ということで、早めに参加募集を行ったことと、前大会の参加者の広まりもあり、出場12団体、22チームと、昨年の出場6団体（参加7団体）、12チームに比べて倍近い参加があった。

参加募集は、募集チラシや募集要項などを作成し、後援・協力をいただいた各種団体から配布していただいたり、インターネットやメールでの呼びかけのためにホームページを開設した。また、「信州環境フェア」「ながの環境フェア」などでパネルや実車を使った展示や、新聞紙面や公益活動関連のメーリングリスト等でも事前告知を行った。

その結果、短期間であったが、たいへん多くの参加者があり、盛会となった。また、昨年の出場校の呼びかけにより参加した学校もあり、学校同士の交流も育まれることとなった。

|                       |         |
|-----------------------|---------|
| 今年度参加者数               |         |
| ■エコラン交流会参加者           | : 53人   |
| (学生39人、大人14人)         |         |
| ■エコマラソン               | : 404人  |
| (学生110人、大人44人、一般250人) |         |
| 参加チーム                 | : 22チーム |
| ■エコドライブ体験             | : 7人    |
| <hr/>                 |         |
| イベント参加者 合計            | 464人    |

|                      |         |
|----------------------|---------|
| 昨年度(2007年度)参加者数      |         |
| ■エコラン交流会参加者          | : 62人   |
| (学生44人、大人18人)        |         |
| ■エコマラソン              | : 158人  |
| (学生85人、大人43人、一般125人) |         |
| 参加チーム                | : 12チーム |
| ■エコドライブ講習            | : 24人   |
| ■エコドライブ体験            | : 11人   |
| <hr/>                |         |
| イベント参加者 合計           | 350人    |

## 6. 報道

長野県内では2回目となるエコカーの大会とあって、新聞、テレビ等で多く取り上げていただいた。これにより、エコカーやエコドライブの市民への波及を目的として、次の広報活動が実現できた。

- ・当日のニュース
- ・15分番組(エコロジー最前線)
- ・1時間番組(Yes, ものづくりナガノ)

また、新聞では、長野市民新聞・週刊長野・信濃毎日新聞などで大会の状況を掲載していただいた。

## 7. 会場管理・誘導・安全管理

会場各所および周辺について、プログラムや活動内容を事前に検討し、安全上の配慮を行った。

大勢の来場者が予想されたため、敷地入口や駐車場への誘導、見学者動線の管理など、会場の管理と誘導のためのスタッフを配置し、事故防止、安全指導にあたった。

また、会場付近で利用できる公共交通機関が少なく、自家用車による来場が多いため、エムウェーブ敷地内に看板や誘導員を配置して、円滑な誘

導を図った。

安全面では、エコカーの走行時や整備時の事故やケガ等の発生、見学者の熱中症などが考えられたため、保健師(牛澤様)を依頼して現場に常駐していただいた。また、大会本部テントの横に救護 TENT を設けたほか、管理者にお願いして空調の整った建物(管理棟)の一室を借りて救護室を設けた。

事前に、長野市消防局に大会内容等を説明し、万が一の場合の協力要請を行っておいたほか、当日も長野市消防局から参加者全員への安全訓辞と緊急連絡先等のアドバイスをもらった。

走行では、事前テスト走行によりカラーコーン、標識等によるルート明示や、直線区間の追い越し(遅い車が車線を譲る)・カーブ手前で追い越し禁止などのルールを徹底した。

その結果、事故やケガは1件もなく、2日間のプログラムを無事終了することができた。実りの大きいイベントとなった。



ご協力をいただきましたたいへん大勢の皆様には感謝申し上げます。参加者からは早くも来年度の開催の希望が多く集まっておりますので、今後ともご理解・ご協力をお願い申し上げます。

**エコマラソン長野実行委員会**

実行委員長 箕田大輔  
 競技委員長 岡田 学

**事務局 特定非営利活動法人CO2バンク推進機構**

理事長 宮入 賢一郎

〒381-2217

長野県長野市稲里町中央三丁目33番23号

電話 026-285-5370

FAX 026-254-7301

URL <http://www.co2bank.org/>

Mail [co2bank@nifty.com](mailto:co2bank@nifty.com)